

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 国内・海外

日本語教育の対象者:生活者としての外国人(大人、16～19歳の若者)

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 日本語指導者・日本語指導補助者・コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称:公益財団法人浜松国際交流協会		
	主な日本語教育事業		
	○浜松市外国人学習支援センター		
	・日本語学習支援講座(浜松市委託), 日本語学習等支援者養成講座(浜松市委託)		
	・地域日本語学習支援事業(浜松市委託)		
	・外国につながる次世代の学習支援事業(浜松市委託)		
	○「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業(文化庁委託)		
	○企業内日本語教室コーディネート事業(自主事業)		
2. 養成・研修概要	1) 研修・講座の名称:浜松版地域日本語教師養成講座		
	2) 研修の目的及び育成しようとしている人物像:地域で求められる多様な日本語学習ニーズに臨機応変に対応でき、多文化共生に資する日本語教育ができる人物		
	3) 研修対象・受講資格:日本語教師有資格者		
	4) 受講方法:(通信・通学など)通学		
	5) 研修実施時期及び期間:年1回, 9月開講、全25回		
	6) 研修実施時間数:全41.5時間		
	7) 受講料:30,000円		
	8) 教育実習・実践演習等の有無:有(プロジェクトワーク実習)		
	9) 修了要件:20回(8割)以上出席者		
	10) 評価及び認定の方法:出欠の確認により判断。修了証を発行する。		
	11) 受講修了者の進路(活動分野):国内(生活者としての外国人)、当該日本語教育機関の指導者として登録する。		
3. 養成・研修の 科目一覧	科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。例)【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)		
	別紙参照		
4. 養成・研修の 内容	平成12年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの		
	※実施していないものを取り消し線で消してください。(例、 文明 ・哲学) 追加科目を【 】に記載してください。		
	領域	区分	区分(①～⑯) 内容
	社会	社会・文化・地域	①世界と日本 歴史、文化、文明、社会、教育、哲学、国際関係、日本事情、日本文学【 】
			②異文化接触 国際協力、文化交流、留学生政策、移民・難民政策、研修生受入政策、外国人児童生徒、帰国児童生徒、地域協力、精神衛生【 】

<p>・文化地域に関わる領域</p> <p>教育に関わる領域</p> <p>言語に関わる領域</p>		③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史, 言語政策, 教員養成, 学習者の多様化, 教育哲学, 学習者の推移, 日本語試験, 各国語試験, 世界各地域の日本語教育事情, 日本各地域の日本語教育事情【 】
	言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化, 社会言語学, 社会文化能力, 言語接触, 言語管理, 言語政策, 言語社会学, 教育哲学, 教育社会学, 教育制度【 】
		⑤言語使用と社会	言語変種, ジェンダー差・世代差, 地域言語, 待遇・ボライトネス, 言語・非言語行動, コミュニケーション・ストラテジー, 地域生活関連情報【 】
		⑥異文化コミュニケーションと社会	異文化需要・適応, 言語・文化相対主義, 自文化(自民族)中心主義, アイデンティティ, 多文化主義, 異文化間トランス, 言語イデオロギー, 言語政策【 】
	言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解, 談話理解, 予測・推測能力, 記憶, 視点 , 言語学習【 】
		⑧言語習得・発達	幼児言語, 習得過程(第一言語・第二言語), 中間言語, 言語喪失, バイリンガリズム, 学習過程, 学習者タイプ, 学習ストラテジー【 】
		⑨異文化理解と心理	異文化間心理学, 社会的スキル, 集団主義, 教育心理, 日本語の学習・教育の情意的側面【 】
	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識, 実践的能力, 自己点検能力, カリキュラム, コースデザイン, 教室活動, 教授法, 評価法, 学習者情報, 教育実習, 教育環境, 地域別・年代別日本語教育法, 教育情報, ニーズ分析, 誤用分析, 教材分析・開発【 】
		⑪異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育, 多文化教育, 国際・比較教育, 国際理解教育, コミュニケーション教育, スピーチ・コミュニケーション, 異文化コミュニケーション訓練, 開発コミュニケーション, 異文化マネージメント, 異文化心理, 教育心理, 言語間対照, 学習者の権利【 】
		⑫言語教育と情報	教材開発, 教材選択, 教育工学, システム工学, 統計処理, メディアリテラシー, 情報リテラシー, マルチメディア【 】
	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学, 世界の諸言語, 言語の種類, 音声の種類, 形態(語彙)の種類, 統計の種類, 意味論の種類, 語用論の種類, 音声と文法【 】
		⑭日本語の構造	日本語の系統, 日本語の構造, 音韻体系, 形態・語彙体系, 文法体系, 意味体系, 語用論的規範, 表記, 日本語史【 】
		⑮言語研究	理論言語学, 応用言語学, 情報学, 社会言語学, 心理言語学, 認知言語学, 言語地理学, 対象言語学, 計量言語学, 歴史言語学, コミュニケーション学【 】
		⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力, 表出能力, 言語運用能力, 談話構成能力, 議論能力, 社会文化能力, 対人関係能力, 異文化調整能力【 】

<p>5. 特徴的な内容</p>	<p>貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して、特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら、記載をお願いします。</p> <p>【講座の特徴】</p> <p>地域で活動する日本語教師(有資格者)の仲間を増やすための養成講座なので、地域社会を理解し、地域の多文化共生に資する日本語教育について一緒に考えていける人材を養成する内容を組んでいる。</p> <p>また、前半を連続公開講座とし、広く一般市民へも地域で行う日本語教育の重要性を知らせる機会としている。</p> <p>【地域で日本語学習支援を行う人材についての変遷】</p> <p>当協会では、日本語教室開催当初から2009年度まで、日本語学習支援を担う人材を養成するために、日本語ボランティア養成講座を年間1～2期行ってきた。この講座で養成された人材は、日本語ボランティアとしてボランティアバンクに登録され、当協会の日本語教室や他団体の日本語教室で活躍してきた。</p> <p>2010年1月、浜松市は定住外国人に総合的な学習支援を行うために、外国人学習支援センター(以下、^{ユートック}U-ToC)を開設した。多文化共生社会を構築するために、外国人のための日本語教室のみならず、日本語教室を支える人材を養成する日本語ボランティア養成講座、互いの文化を体験し、交流を深めながら、相互理解を促進するための多文化体験講座、外国人支援者のためのポルトガル語講座の4事業を当初の柱とし、年間を通じて開催してきた。(現在は、地域日本語学習支援事業、外国につながる次世代の学習支援事業を加えた6本柱。)</p> <p>2010年～2012年度は、センター開設前の5倍に増えた日本語教室に対応するため日本語ボランティア養成講座を年間4期と1年を通じて切れ目なく行い、修了生をU-ToC日本語教室を支える貴重な人材(日本語ボランティア)として活用していた。日本語教室では、日本語ボランティア養成講座で講師を行っていた日本語教師有資格者が主に登壇し、日本語ボランティアらが教室活動を補助していたが、人材不足に対応するために、日本語教師有資格者らによって日本語ボランティアらが日本語教室で登壇できるよう指導も行っていった。しかし、この仕組みは、日本語教師有資格者、日本語ボランティアの双方から苦情があがり、また、学習者の継続率も安定せず、運営体制の改善の必要性を感じていた。</p> <p>そのため、2013年度から、日本語教師有資格者と日本語ボランティアの役割を明確にし、それぞれの長所を活かした活動ができる体制へと移行した。日本語教師有資格者には、日本語教育に関する知識や実践スキルなど専門性を活かした日本語教育活動を、また、日本語ボランティアには、地域を支える対等な市民として寄り添いながら行う学習支援や、日本語／日本文化を通じた交流活動を中心に行ってもらい、学習者らが学習の場と交流の場を自由に横断しながら、社会参加に踏み出すための基盤づくりを行っている。</p> <p>日本語教師と日本語ボランティアの役割を明確に分けたことで、互いの長所を活かした活動の整理はできたが、新たな課題として日本語教師の人材不足があがってきた。そして、その課題は、2014年度に行った文化庁委託による「浜松市日本語教育連携推進事業」で、市内で活動する団体にも共通する課題であることが明らかになり、浜松市全域を通じて日本語教師の質、数の不足に早急に対応する必要に迫られている。</p>
------------------	---

	<p>しかし、当協会内で、日本語教師養成講座の開催は困難であるため、民間の日本語教師養成講座と連携し受講生による U-ToC 日本語教室見学や、日本語教室補助等も徐々に始めてはいるが、安定した教師数を確保するためには、仕組みとして整えていく必要があるだろう。また、当協会には、日本語学習支援団体、高校、外国人学校、企業等から日本語教師の紹介依頼や日本語教室コーディネート依頼が多く寄せられており、多様な背景を持つ「生活者としての外国人」の幅広い学習ニーズに臨機応変に対応でき、また地域で日本語教育を行う意義を共有できる人材の質的確保も求められている。</p> <p>これら課題に対応するため、日本語教師有資格者を対象とした浜松版地域日本語教師養成講座の開催を検討し、今年度より実施に至る。</p>
<p>6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力</p> <p>※御参考:平成12年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添</p>	<p>1) 資質 2) 知識 3) 能力 について平成12年報告に示された、下記内容について該当する場合は、□に☑を付けてください。また、活動分野及び役割別の 1) 資質 2) 知識 3) 能力 については、□以下に記載をお願いします。</p> <p>1) 資質</p> <p><input type="checkbox"/>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している</p> <p><input type="checkbox"/>鋭い言語感覚を有している</p> <p><input type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として、豊かな人間性を備えている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p> <p>2) 知識</p> <p><input type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語使用に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語発達に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語の習得過程に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>日本の教育制度に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の歴史・文化事情に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国の教育制度に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p> <p>3) 能力</p> <p><input type="checkbox"/>日本語を正確に理解し的確に運用できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力</p> <p><input type="checkbox"/>教育課程の編成、授業や教材等を分析する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教育課程の編成、授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p>

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	資格は特になし。実行委員会で選定を行う。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	未実施(今年度より開催)
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題(改善を検討したい点)と展望	未実施(今年度より開催)
10. その他 (人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら、記載してください。)	<p>日本語教師の数的確保は、日本語教師養成講座を開催していない(できない)当団体には非常に大きな壁であり、民間の日本語教師養成講座を開催する企業との連携が欠かせない。「連携」は机上では簡単な言葉であるが、一過性で終わらず仕組み化するためには、ルール作りや相互のスケジュール調整等、時間と手間が必要であり容易ではない。</p> <p>また、日本語教師の需要は地域以外にも、海外や国内の日本語学校、企業と高まっており、安定して働ける場とは言い難い地域を、活躍の場として選ぶ日本語教師は増えないのではないかと危惧している。</p> <p>加えて、一定の数が担保できない状態での質の確保も非常に困難であり、時代とともに刻々と変化する学習ニーズに対応できる日本語教師を増やすためには、恒常的に研修を行ったり、事業改善会議への参加やコーディネーターとのコミュニケーション等が必要であると考えます。しかし、スポット的にでしか関わりをもてない日本語教師に研修や打ち合わせへの参加を促すことも容易ではなく、対応に苦慮している。</p> <p>地域で日本語教育を行うことは、短期的にも中長期的にも日本社会が安全安心な街であり続けるために必要不可欠なことであることから、国が主導する言語保障政策が切に望まれる。入国や定住するための要件等に日本語学習義務が課せられない限り、地域の対応だけでは限界を感じている。これまで必要に迫られて、日本語教師、日本語ボランティアの善意とともに、様々な努力や工夫を重ねてきたが、担い手である日本語教師の身分保障がされないまま、今の(ぎりぎりの)状態が継続できるとは到底思えない。早急な対応をご検討いただけることを切に願う。</p>

浜松版地域日本語教師養成講座カリキュラム

期間 平成28年9月17日（土）～平成29年2月25日（土） 全41.5時間

対象 前半：日本語教育に関心のある人、地域の多文化共生に関心のある人

後半：前半を受講した日本語教師

費用 連続公開講座のみ：5,000円（10回）、1,000円（1回）

浜松版地域日本語教師養成講座：全30,000円

最少催行人数 11人

【前半】連続公開講座

コマ数(1コマ=1.5時間)	ブラッシュアップできる資質・能力 (BCEF)	講座名	内容		区分
1	C	オリエンテーション	受講者間紹介	2h	②③
		地域理解（浜松）	・市の取り組み ・外国人の現状 ・外国人の子ども		
2	C	地域理解（浜松）	・在留資格 ・市内各教室、ボランティアの取組 ・企業内日本語	1.5h	②③
3	EF	異文化コミュニケーション	（寄り添う力） 世界の価値観を理解し、違いを認める	1.5h	⑩
4	EF	異文化コミュニケーション	（つながる力） 相手を尊重した上で、自分の気持ちもしっかりと伝えるアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ	1.5h	⑩
5	C	国の多文化共生施策	多文化共生についての日本の動きと、世界の移民統合政策について学ぶ	1.5h	②③
6	C	地域日本語教育（文化庁）	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標 地域日本語教育の位置づけ、関連施策等	1.5h	②③
7	C	やさしい日本語から多文化共生を考える	やさしい日本語の理論を学び、共生のための日本語について考える	1.5h	④⑤
8	C	言語政策と地域日本語教育	多文化・多言語主義について学ぶ	1.5h	④⑥
9	CEF	ひょうたん島問題から多文化共生を考える（理論）	架空の島（ひょうたん島）で起こる多文化共生のジレンマを浜松市と照らし合わせながらWSで学ぶ	1.5h	⑥⑩
10	CEF	ひょうたん島問題から多文化共生を考える（実践）	架空の島（ひょうたん島）で起こる多文化共生のジレンマを浜松市と照らし合わせながらWSで学ぶ	1.5h	⑥⑩

（平成22年度文化庁委託 生活日本語の指導力の評価に関する調査研究を参考に一部改変）

地域日本語教育に求められる資質・能力	A	日本語教育に関する知識・能力
	B	日本語教育に関する実践能力
	C	地域社会を理解し、生きる力
	D	企画立案能力
	E	人とつながりネットワークを構築する力
	F	対人関係を築く力

【確認事項】

※前半（1～10回）は、個人の知識や技術の向上を目指す。地域の多文化共生を理解するための連続公開講座とする。

※後半（11～26回）は、グループやペアワークを通じて他者との関係性を意識した行動を学ぶ。対象は日本語教師のみ。

※全ての講座において、C（地域理解）の要素を絡める。地域で日本語教育を行うことの意義や重要性の視点を養い、地域で活動する日本語教師を増やす。

【後半】日本語教師向け

コマ数(1コマ=1.5時間)	ブラッシュアップできる 資質・能力 (BCEF)	講座名	内容		区分
11	BEF	発話を引き出す質問力を養う	様々なインタビューを聴き、質問の仕方によって発話の引き出し方が違うことを学ぶ	1.5h	⑩⑯
12	BEF	対話する力・響き合う力を養う	具体的な教材例をもとに、対話によって実践を進めることの大切さを学ぶ	1.5h	⑩⑯
13	BC	グループワーク (多様な現場を知る)	地域で日本語を学ぶ学習者にはどんな学習ニーズがあるのか、地域日本語教室ではどのような日本語学習支援を行っているのか学ぶ	1.5h	⑤⑧⑩⑯
-	BC	グループワーク (見学)	U-ToC、企業内日本語教室、外国人学校、地域日本語教室、日本語学校、介護のための日本語教室等へ見学に行く(課題レポートの提出)	-	⑤⑧⑩⑯
14	BC	プロジェクトワーク (準備、マッチング) (外国人学習者の声)	写真で語る私の歴史イベントをベースに、1人の学習者と向き合って、学習者の自分史作成を協働で行う	1.5h	⑤⑧⑩⑯
15	BCD	プロジェクトワーク (準備、マッチング) (外国人学習者の声)	学習者と協働で実習計画を立てる (全15時間分、中間と最終報告含む)	1.5h	⑤⑧⑩⑯
-	BC	プロジェクトワーク	実習 全15時間	-	⑤⑧⑩⑯
16	B	自己教育力	内省する力の必要性を学び、時代の変化や地域のニーズに伴い進化し続ける教師を目指す	1.5h	⑩
17	B	自己教育力	内省する力の必要性を学び、時代の変化や地域のニーズに伴い進化し続ける教師を目指す	1.5h	⑩
18	BC	HAJAC	HAJACとはなにか	1.5h	⑯
19	BC	HAJAC	HAJACを体験してみよう	1.5h	⑤⑧⑩⑯
20	BC	HAJAC	HAJACをクラスでどう活用するか考えよう	1.5h	⑩⑯
21	BC	プロジェクトワーク (中間報告)	実習 中間報告	1.5h	⑤⑧⑩⑯
22	BC	グループワーク (報告)	多様な現場への見学で、気づいたことや学んだことを報告し共有する	1.5h	⑤⑧⑩⑯
23	BCD	グループワーク (課題解決検討)	気づいた課題の解決方法について検討する	1.5h	⑤⑧⑩⑯
24	BC	プロジェクトワーク (最終報告)	実習 最終報告	1.5h	⑤⑧⑩⑯
25	BC	グループワーク (まとめ)	地域日本語教育の多様性を捉え直す	1.5h	⑤⑧⑩⑯
26	BC	プロジェクトワーク (成果発表)	発表会にて成果発表 希望者は写真で語る私の歴史イベントにて発表	1.5h	⑤⑧⑩⑯
27	C	地域日本語教育の重要性	移民に必要な日本語教育から、地域日本語教師の重要な役割や求められる社会的意義について学ぶ	2h	⑤⑧⑩⑯
-	-	振り返り			